

— 随想 —

鉄と子供と私たち

中山京子*・岡口恭子*
手塚結香*

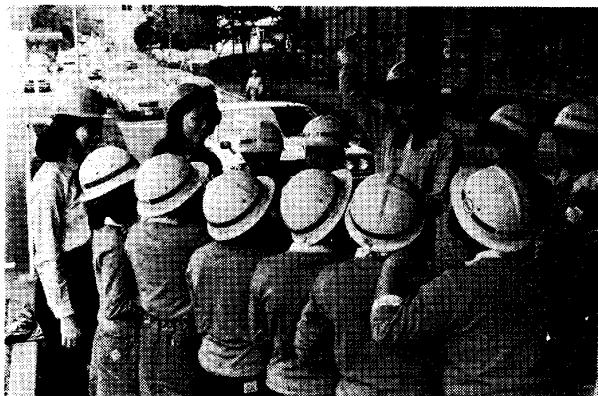
1. 女性と製鉄所案内

私たちの会社が小学生の工場見学を受け入れはじめたのは今から 10 年前、地域社会との交流を深めるため、また 5 年生の社会科教育のために「日本鋼管へ見学にいらつしやいませんか?」という呼びかけをしたのが最初でした。それからだんだんと見学を希望される学校が増えてきました、現在では 1 年間に川崎市内と横浜市鶴見区内 2 万人の小学 5 年生が見学に来ています。さて、このような状況のもと、「今まで男性が担当していた工場見学の案内を、これからは女性の手でできないだろう?」というところから私たちの見学物語が始まります。

何の前ぶれもなく突然この話が具体化したのは、昭和 58 年の 6 月のことでした。まさか実際に自分たちで案内の仕事を始めると夢にも思つていませんでしたので、その時、私たちの頭に浮かんだことは「私たちにできるのかしら…?」という不安だけでした。しかし決まつてしまつた以上、前向きにやつてみるしかない! そう心にかたく決めて行動を開始しました。

まず案内をするには工場を知らないくては…ということでお私たち自身が工場見学に出かけました。何しろ工場を見たのは入社 57 年 4 月以来 2 度のこと、何を見ても目新しく、初めて見る小学生のように感嘆の声をあげながらの見学でした。実際に 7 月からは一般見学のお客様に同行させていただいたりもしました。案内者がどう説明しているか、とても興味深いものがありました。とにかく見学コースを覚えること、工場に慣れることが目標として、仕事の合間をぬつてできるだけ数多く現場に出るようにしました。同時に他の会社で女性が見学案内をしているところへ勉強に出かけたりもしました。それから見学のマニュアル、いろいろな資料等に目を通しましたが覚えなくてはならないことが山ほどありました。

勉強に励むこと 3 カ月、9 月に入つて 2 学期が始まり、小学生が元気いっぱい見学に来るようになりました。いよいよ出番がきました。服装は安全面や見学者に好印象を与えることなどを配慮して、紺のスラックス、ブルーのシャツ、グレーのジャケット、青いヘルメット、女性用安全靴に決めました。たまに「ホテルのドアボーイのようだ」と言われることもありましたが、評判も良く、私たちも大変気に入っています。最初は、男性の案内するバスに同乗し、小学生と一緒に勉強しましたが、10 月に入るとこのユニフォームを身につけてよい



ヘルメットをかぶつて、さあ出発!



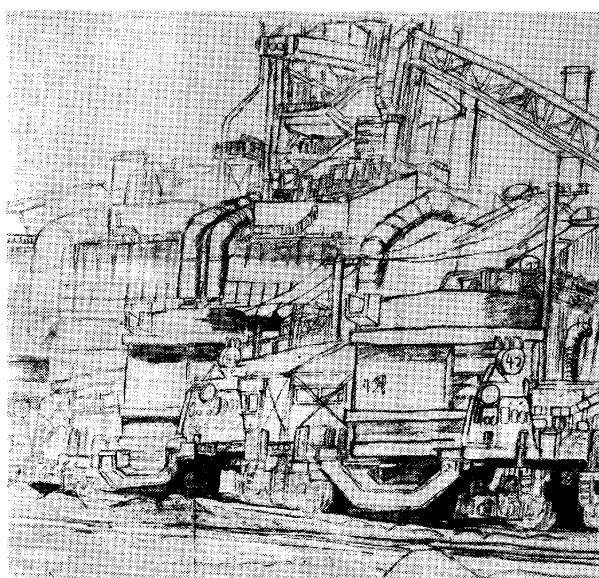
車内説明用に作った高炉のパネル

よ一人一台のバスを受け持つようになりました。

小学生の見学が終わつた後の時間にはマニュアルの見直しをしたり、女性の目から見た各場所の要点だけをまとめ、分りやすい説明を考えたり、よりよい案内のためのくふうをしました。例えば、溶鉱炉の説明の仕方では、いままでは 90 段の階段を登り見学室に入つて説明していたのですが、日によつては出銑状態もよく見えず、また高所恐怖症の子がいたりしてたいへんでしたので見学室に入るのをやめ、そのかわり溶鉱炉の下をバスでゆつくり走り、出銑やスラグの流れる状態を見せながら説明するようにしてきました。さらにもつと分かりやすい方法はないかと考えた結果溶鉱炉の外観と中での作業を書いたパネルを作りました。これは子供たちにも評判良く、私たちも満足しています。

案内に関する業務はこの他にも、小学校からの見学受付、電話での問い合わせ応対、確認パンフレットの整

* 日本鋼管(株)京浜製鉄所



扇島の高炉と溶銑鍋と台車（一部カット）
絵 中村 満君（川崎市立南河原小学校）

理、応対者の調整等、いろいろあります。

これらも今ではできればと処理できるようになります。気持ちにも少し余裕がでてきて、子供たちの驚きや喜びを肌で感じながら案内できるようになりました。また身体の不自由な子供のいるクラスでは、付き添つてあげる子供が必ずいたりして、子供たちの持つやさしさや、思いやりに触れ、心温まる思いをすることもあります。

2. 小学生と鉄のふれあい

それでは、ある1日の私たちの見学案内についてみなさんに御紹介しましょう。

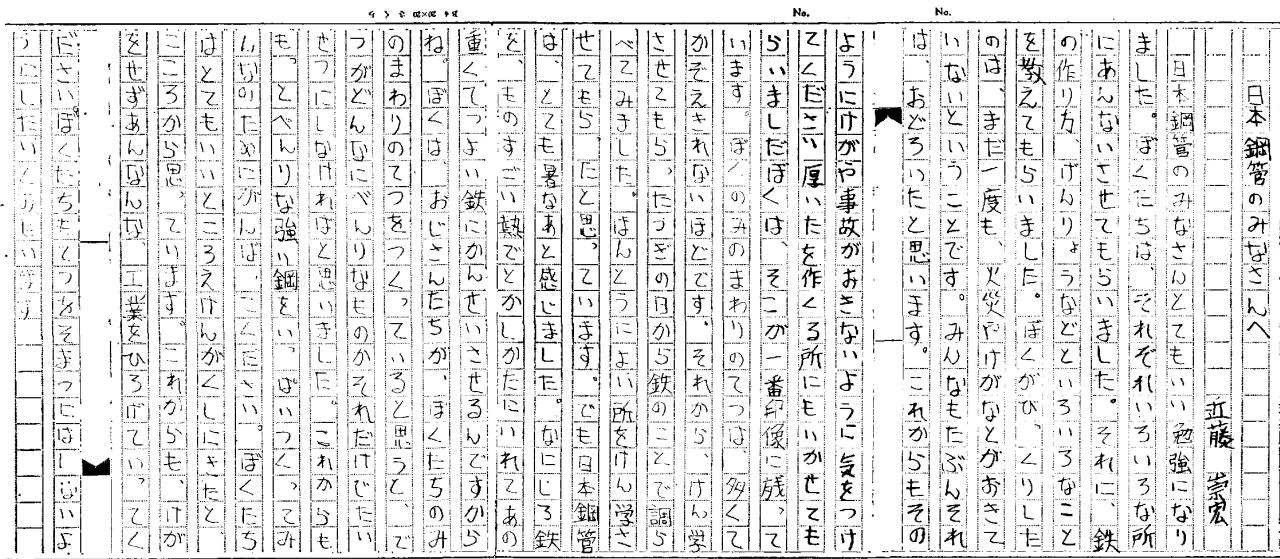
朝9時に小学生を乗せたバスが5台京浜ビルに到着しました。普段よりは台数が多く、この日は私たち女性3

人と男性2人が案内することになりました。

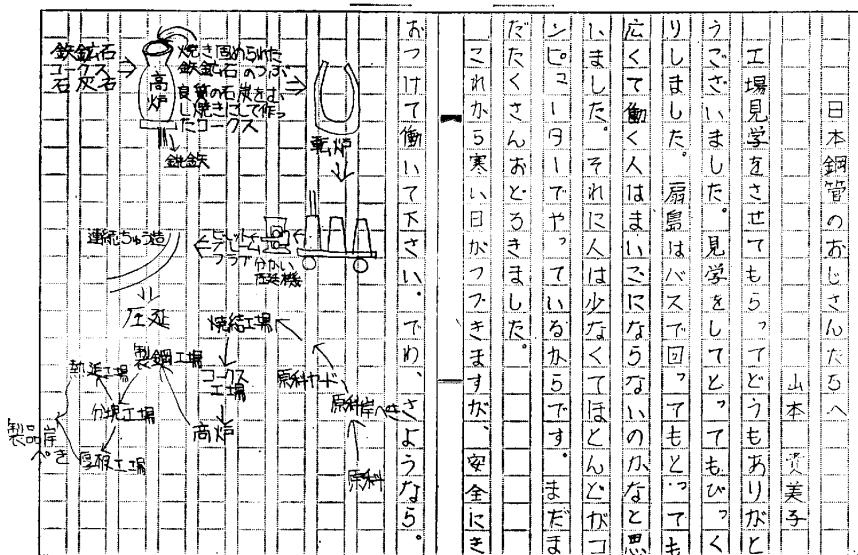
今日はどんな小学生が見学に来たのか考えながらそれぞのバスに乗り込むと「わあ、おねえさんだ」と喜んでくれます。やはり女性の方がもてるようです。最初に「おはようございます」と元気な声で挨拶をかわし扇島にあるPRセンターに向けて出発します。学校によつて生徒にいろいろな特徴があるのでそれをつかむのにPRセンターまで行く15分間はちょうどよい時間になります。

PRセンターに着いて案内役スタッフの紹介をし、そのあと「鉄と社会」という映画を20分間上映します。この上映中には、私達のミニミーティングが始まります。稼働状況を調べコースを決めるのですが、今日は台数が多いので2コースに分かれて見学することにします。

バスに乗り込んだ小学生の姿は、小さい頭に重くて頭よりふたまわりぐらい大きなヘルメットをかぶるので不つり合いなところが、とつてもかわいいです。そして初めてヘルメットをかぶる小学生が必ずすることは、エンピツで叩き合つて痛くないことを確かめ合うことです。これがエスカレートしないうちに出発します。まず東の原料バースを回ります。このバースで鉄鉱石を荷揚げしている20万トン級の船の大きさにまずビックリ。そして鉄鉱石を運ぶベルトコンベヤーをずっと目で追うとそびえたつ製鉄所のシンボルの溶鉱炉が見えて来ます。溶鉱炉の回りをSの字にまわつて大きな鉄なべに出銑している様子を見せ、そのあと作つたパネルを使いながら溶鉱炉の働きをわかりやすく説明します。「あれが鉄なの?」「さわれるのかな?」という無邪気な質問が出ておもわず微笑んでしまいます。小学生とつて巨大な製鉄所の目に映るものみんなが初めてなので、説明するご



見学した小学生の感想文 近藤崇宏君（川崎市立南河原小学校）



見学した小学生の感想文

山本貴美子さん（川崎市立南河原小学校）

とに子供たちの表情が真剣になつてきます。

やがて、西海岸の出荷岸壁についている初航海の中国の船を横目に見ながら目的の工場に向かうと「早く工場を見たい!」という子供たちの声——。そんな声を聞きながらようやく薄鋼板を作る熱延工場へと着きます。

工場では地上から 8m の高さの見学通路を 500m ぐらい歩くのですが、高所恐怖症の子供は音と真赤になつた鉄の板を見て尻込んでしまいます。大きな塊が見る間に薄くなりトイレットペーパーのように巻き付けられていく様子は小学生ばかりか私たち自身も何度も見ても飽きません。子供たちは釘付けになり夢中で見入つています。

感激の余韻を残したままバスは PR センターへもどつて来ます。さてこれから今まで見てきたことの質問の時間です。「パイプを全部縫なげるとどのくらいの長さになりますか」「頭がよくないと会社に入れないんですか」と奇想天外の質問が飛び出すたび一瞬困りますが、その所はどうやらうまく切りぬけます。私たちも一応案内のプロなのですから……。2 時間 30 分余りの工場見学が終わり PR センターで小学生とお別れします。

バスの窓からいつまでも手をふつている小学生の姿を見ていると、とつてもうれしくなります。

現在、私たちにはまだ仕事をふりかえる余裕などありませんが、見学案内の仕事についてから6か月たち、多

くの子供たち、先生方から見学後の感想、御礼などをいたたくと、この仕事がこんなに子供たちに喜ばれ、また学校教育に少しでもお役にたつていることがわかりました。入社して3年、仕事は会社内のことと思つていました。しかし男性にかわつてこの仕事を体験し、企業と社会との関係、鉄と子供たちとのかかわり…私たちは今、大切な仕事を始めていることをあらためて感じています。

お礼のお手紙が遅れて本当に申しわけございませんでした。あの日見た鉄の出来るまでの様子、さっそく授業でも生かすことができ心より喜んでいます。特に溶鉱炉から流れ出る真赤な鉄には本当に驚いていました。また、工場内の様子のみならず、環境についても驚いていたようです。「まさか大工場のまわりに自分達のまわりにある樹木よりも多くの緑があろうとは」子供達は異口同音にそんなことを言っていました。

これからも私共の学校の児童あるいは、市内のいろいろな学校が工場見学に来ることと思いますが、宜しく御指導いただきたく存知ます。まわりに工場のない地域の学校にとって日本鋼管の心温まる御好意は本当にありがたいものです。

誠に言葉足らずではございますが、御礼の気持ちにかえさせていただきたいと思います。

川崎市立南河原小学校 5年担任一同

見学した小学校の先生からの礼状